



またどこかでね

発行：特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋 東北出張所 MATADOKOKADENE



絵：阿部百恵

とくしゅう：あれから、わたしたちは 生きている

- P1～2 飯館の星
- P3～5 あれから、11ヶ月。 穴戸えみこ
- P6～7 「フクシマ」でない「福島」で 宗形悠希
- P8～9 釜ヶ崎への疎開生活 大阪へ引っ越すまで 小手川望
- P10 infomation ふくしまのいどばたから やっています

星がきれいだったなあって
こっちに来てはじめて気がついたんです

住んでるときはそんなこと

感じもしなかったんですけどね

飯館村の 星空のこと

話し始めてすぐに

あべさんは、ふるさとの飯館村の星空のことを語りました

わたしが村のことを聞く その前に

それは おどろくほど自然に

あべさんの口から キラキラと

こぼれおちてきました

あべさんのうれしそうな 顔

おだやかな 笑顔

その向こう側に 飯館の星空

山を覆うまっくらやみに

いくつも いくつも ひかる星



あべさんの声は
帰る場所を失ったまま

見えない空気は しんと

じかんをとめて

うごけない

星空はいまもそこにあって

あるのだけれど

なくなってしまうていて

ひとみの裏の

まっくら闇に

ひとつ ふた一つ み一つ

あべさんの 飯館村の 星

圧倒的なものに奪われた 飯館村の星

もつ、だれにもうぼうことはできない

記憶のなかの 星の かがやき

でも帰れないんですよ

ひとつも 輝きを失っていない

はつきりと 生きていて

星空は

暗闇の奥に

そのひとみの裏側

こぼれる

涙が自然にひとみにたまっていく

生きてるうちにもう見られないんですよ

こどもを起こしたんですけれどね

上の子がまだちいさかったから

あれは20年くらい前 だったかな

いっっぱい

むこうでは流星群も見えました

こっちにきたらあんまり見えないんですよ

星



聴き取られた人

阿部久美子

福島県飯館村生まれ、飯館村育ち。2

人のお子さんとだんなさんと、犬のな

なさんとくらす。震災後、福島市内に

移住。

聴き取った人

原田麻以

1985年 東京生まれ、東京育ち。NPO

法人ココルームスタッフとして、大阪

西成区にある通称「釜ヶ崎」にて活動。

震災後の福島に関わらせていただくべ

く東北へ移住。モヤモヤと活動中。



③

あれから、11ヶ月。

穴戸えみこ（ししど えみこ）

福島市に生まれ以来ずっと福島市に暮らす、主婦45歳。
16年前に結婚。主人、子供2人、猫4匹。現在、ホメオ
パシー統合医療専門学校の2年生。

あれから、11ヶ月。

もう思い出せないくらい、時間がたった様な気がする。

私の残りの人生分くらい考えた。

何を考えたのだろう。もちろん、放射能のことだ。24時間、今まで一度も頭から離れることはなかった。

地震の時

地震の時、家族はバラバラの場所にいた。私は自宅、主人は仕事で外回り、当時小学校6年の長男は小学校で卒業式の予行演習、5歳の次男は保育園でお昼寝の時間であった。すぐに主人に電話したものの、つながったのは夜7時半ごろだったと思う。メールはたった1件だけ着信した。地震後すぐに埼玉に住む義姉であった。私はすぐに小学校へむかった。みんな無事だった。男の子までも涙顔だった。

水道が止まったということは、トイレに行き、すぐにわかった。行動が早かったため、保育園から道路が混む前に自宅近くまで戻れた。水を買いに大手のスーパーに行ったら、もう閉店していた。すぐ近くのコンビニでは、閉店です、という手書きの看板を無視してどんどんお客さんが入っていく。すでに、水はなかった。スポーツドリンクを買いこみ、帰り道の自動販売機で水を購入した。水を全部買おうか迷った。道路に土砂崩れがあり渋滞になっていて、小学校に車を置き歩いて帰ろうと思っていたのと、他にも水が必要な人がいるだろうと子供たちと話し、数本にとどめた。自宅までの山道にさしかかった時、高校生の男の子が荷物を持ってくれた。本当に嬉しい出来事であった。

その間にも余震は続く。私は、あまりの揺れに、戦争か、地割れが起きるのかととても不安になっていた。普段はあまり現金を持ち歩かないタイプだが、この時はたまたま持っていた。そのあと、ATMにも制限がかり、10万円以上はおろすことができなかった。

福島第一原子力発電所が事故を起こしてすぐ、避難はしなかった。主人の外での仕事があったことが一番の要因だったろうか。どんなことを考えていたのか、今となってはよく覚えてはいない。

「外から帰ったら、うがいと、体はよく水で流してください。」という報道に洗い流せるほどの水はない。主人は小さいジョウロ2杯で、全身を流す毎日。あれで、どれほどの放射能が取れたのか疑問であった。でも、それがあの時の最善の方法。

お弁当は玄米おにぎり。妻が子供を連れて避難したという同僚分も毎日持たせた。もちろん、ガソリン不足なので、自転車通勤。TVから流れる政府の発表の度に、今までにない不安の感覚を体験した。その間にも余震は来る。コートを着ながら、家族全員でリビングの中央で寝た。何回も何回も余震は来た。自分では怖いとは感じていないような気もしたが、地震の後に体の震えが止まらない。一度だけ、恐怖の感情が湧き出し、涙を流しながら、「もう嫌だ」と叫んだことがある。

⑤ あれから、11ヶ月。 宍戸えみこ

1歩、外にでてみようと思う。 — — — — —

つい先日、避難を決めた。

学校の懇談会で、ある保護者が、「うちの子供は、命をかけて外で部活動をやっているのだから、内申書の評価を高くしてもらいたい。」と、発言したことに対して、先生が否定しなかったことでもうこれ以上、今の学校で生活させるのが、いやになってしまった。

本当に、”いや”になった。

もしかしたらこのまま、食べ物や色々な事に気をつけたら福島に住めるのではないか。

住むのか

住まないのか

住んではいけないのか

避難を決めた今でも頭をよぎる。主人と猫4匹を残して、行く。

こうゆう大きな出来事や問題にぶつかった時、問題を大きくしているのは、”その人が選択したことを、お互いに認め合わない”ことだ。みんな、同じでなければ不安なのだ。今までの自分の行動は間違っていたと、もし気づいてしまった時、もう取り返しがつかないのではと思うに違いない。だから、気付きたくないし、気付いても意識化しないようにしている。その根底にあるのは、恐怖であろう。

それから、福島に住んでいると、ひよこがダチョウの卵の中にいるような気分になる。もう自分で殻を破るのは難しい。そのために私は、1歩、外にでてみようと思う。

わたり土湯ぽかぽかプロジェクト報告会



○日時：3月18日（日）14:00~16:30 ○場所：福島県総合社会福祉センター

○内容：わたり土湯ぽかぽかプロジェクトとは
実施報告／参加者からの意見／今後に向けて

○無料・申込み不要（当日、会場までお越しください）

○主催：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト

○問い合わせ先 満田（みつた）090-6142-1807

「除染がはじまって効果があがるまで、せめて子どもたちを一時避難させて！」「わたり土湯ぽかぽかプロジェクト」は、こんな声に答えてはじまりました。全国からたくさんの寄付をいただき、子どもたちは、雪遊び、折り紙教室やマジックショーに大喜び。しかし、はじめえてみてわかった苦労もたくさんあります。

わたり土湯ぽかぽかプロジェクトを、今後どうしていくのか。ご報告とともに、参加者の皆さんも交えて今後に向けた議論をしたいと思います。

わたり
土湯ぽかぽかプロジェクトって？

全国からの支援と、土湯温泉観光協会の協力を得て、福島市の比較的線量の高い渡利・大波・南向台・小倉寺にお住まいの方に、土湯・野地・鷺倉温泉の格安滞在プランをご提供するプロジェクト。

3月23日まで受け付けは行われています。詳細とご応募は下記HP、もしくはお問い合わせください。

◆ホームページ

<http://hinan-kenri.cocolog-nifty.com/blog/pokapoka.html>

◆問い合わせ：わたり土湯ぽかぽかプロジェクト

TEL.080-6008-0808

FAX.03-5225-7214

「フクシマ」ではない 「福島」で

宗形 悠希

(むなかた ゆうき)

平成3年11月8日生まれ A型 祖母・両親・妹の四大家族。父は市役所職員、母は看護師 3人兄弟の次男、一つ上の兄と三つしたの妹。兄は三歳の時に癌で他界、記憶はない。幼小中学校と須賀川ですごし、小学四年から中学一年まで須賀川リトルリーグ所属。須賀川桐陽高等学校、一年浪人し東京都三鷹市に一人暮らしをしながら河合塾新宿校に通い、2011年4月、明治学院大学経済学部経済学科入学。

5月 から始まった横浜での大学生活。購読し始めた新聞のなかで地元福島の記事には必ず目を通し、忘れてはいけないと思った記事はスクラップした。震災・原発事故で苦しんでいる人達の状況を見る度に何かしなければと思ったが、原発・放射能に関する知識の少なさ、情報の信憑性、学生という立場、事の大きさに無力感を感じて何が出来るのかわからなかった。さらに、実家の須賀川市は原発から約60キロの距離にあり、すぐに避難が求められる地域ではなかったが、安定しない原発の状況を考えるとそこに住み続ける家族のことで心配は尽きなかった。

ボランティアのためにと空けていた時間は、新たに居酒屋のバイトを始めた

全て埋めた

長く悶々とした日々が続いたが、難しくあれこれ考えるよりも行動しなければと思った。福島にいたときと同じようにボランティアで出来ることをしようと決めた。

この大学はボランティアが盛んだと聞いていたので、福島のために何か出来るだろうと考えていたが、募集していたのは岩手・宮城での活動であった。18年間生きてきた故郷のために活動したい気持ちが強かったが、「放射能の影響がどう出るかわからないなかで学生に活動させることは出来ない」と言われた。最もな理由であり、聞かなくても頭のなかでわかっていたこと。民間の団体で探してみてもなかなか見つけれずに、何もしないまま時間ばかりが過ぎてしまった。学生の間でも震災関係の話は消えてしまい、風化してしまったのではないかと感じたこともあった。忘れられてしまうことが一番こわい、という被災地の方の言葉が身に染みていた。

地元の方が被災して苦しんでいる一方で、何もなかったかのように進んでいく学生生活は苦しい日々だった。

⑦ 「フクシマ」でない、「福島」で

そして、須賀川の稲わらからセシウムが検出されると朝のニュースで目にしたときに、一度気持ちが折れてしまう。福島のことを目にするのが嫌になって、新聞記事のスクラップも、ニュースを見ることも全部やめて、ボランティアのためにと空けていた時間は、新たに居酒屋のバイトを始め全て埋めた。

目をそらして、大変なことは誰かに任せてしまえば楽になると思っていたが、やはり何もせずにはいられなかった。何かきっかけが掴めればと、12月に本校で開かれたシンポジウムに参加したが、学生が私一人だったことで本当に関心が低いのだと痛感した。私はその場で、何かをしたい気持ち・被災地から離れた場所では関心が低いこと・一人一人が当事者意識をもって向き合わなければならないこと、思っていたことが会場にいる人に伝わればと声に出した。

会が終わってから多くの方に声をかけていただき、活動に参加するようになり、やっと動き出せた気がした。その時で震災から9ヶ月。時間がかかり過ぎたが、長期化するであろう福島の問題に関われることに気合いが入った。しかし、依然として国もマスコミも危険視する声は伝えない。信頼できる情報がどれなのかわからない。

本当に福島に生まれて良かったと思っている。

不安は風評被害を生み農家も、漁師も苦しめた。風評被害というが汚染が検出されたら東電による実害ではないのか。原発事故の報道に埋もれて、地震・津波の被害は忘れられていないか。収束宣言を出しても住民の苦悩は終わらない。子供の将来を案じて県外に避難された方、避難区域内に家畜・ペットを残した方の苦悩。外で遊べずストレスを抱える子供。家族の分断。

時間が経ってもまだまだ多くの問題が福島の人達を苦しめている。考えても答えが出なかったり、行動しても劇的に状況を変えることは出来ず無力感を感じることもあるけれど、何もせずにはいられない。

18年間、思いやりにあふれた人々に支えられ、豊かな自然のなかでのびのびと育ち、多くの友人と出会い本当に濃い時間を過ごした福島。一月には成人式を迎え大人としての一步を福島で踏み出した。本当に福島に生まれて良かったと思っている。これからは離れた場所においても少しづつ恩返しをして、福島で育った人が帰って来られるように復興に貢献したい。

時間が経ち日々報道は減っていくが、それでも福島に生きる人達がいることを忘れないでほしいと強く願う。



埼玉川越 → 大阪西成

釜ヶ崎への疎開生活 (2) 大阪に引っ越すまで



絵：小手川こはる

小手川 望 (こてがわ のぞみ)

「4 (よん)」主宰。演劇制作。埼玉大学経済科学研究科修了。
1997年からプロデュース公演を手がけ「演劇の場で、観客が主体的に参加する作品」を目的として2001年に「4」を立ち上げ。2007年から「茶遊び」を開始。お茶とダンスの交換による演劇を制作している。私生活では、7歳の娘こはるとふたり家族のシングルマザー。

大阪に引っ越すまでー 小手川望 埼玉県出身。昨年6月から釜ヶ崎に小学校2年生のこどものとともに疎開。わたしたち母娘は、2011年6月から、埼玉県川越市から大阪市西成区に引っ越しました。そこまでの経緯を記してみたいと思います。

3月11日に大きな地震があり、その後、東京電力の福島原子力発電所の事故のニュースが流れてきました。わたしは、地震の翌日の12日からニュースを見始めました。3月15日にこどもと共にいったん関西方面に行くことを決意しました。

きっかけはその前日に友人から、小さいこどもをもった親向けにメールが来たことです。その友人のさらに知人からのメールの紹介でした。

「長く反原発活動をしてきた人から、今から24時間以内が爆発の可能性が最も高いと予測されるので、念のために関東からはなれた方がよい、というメールをもらいました。わたしは内容の正否は判断できませんが、一応そういう意見もあることを小さいこどもがいる知人に送ります」

といった内容でした。そのころ、原発事故に関して、ネット上とマスメディア上では本当に内容に乖離がありました。(現在でもその傾向は続いています)とりあえず、内容が正しいかどうかは分からないけれども、間違っているとも言い切れないので、一度より西に移動することに決めました。

3月15日の東京駅発の新幹線は、平日にも関わらず、小さいこどもつれた家族が私たち以外にも数組いました。それでも、わたしが思っていた数よりももっと少なかったです。もっと、関東を離れる人が多いかと思っていました。

大阪についてから、特に予定を組んでいた訳ではないので、以前にいったことがある西成区にあるアートNPOのココルームにお邪魔しました。動物園前駅の近辺にはとても安く宿泊できる宿があるので、そのあたりのホテルにしばらく滞在しようと考えていたのです。ココルームでは、被災した人や、原発事故の影響で疎開を望んでいる人にたいして援助できることが無いかについての話し合いがもたれていました。



⑨ 大阪に引っ越すまで

わたしも疎開当事者として、参加させてもらう機会をもちました。

そして、そのころにココルームには、簡易宿泊施設連絡会の委員長さんがおとずれており、「空いている部屋で被災者の受け入れが可能な物件でなにかできることはないか」を相談にきていました。たまたまそこに居合わせたわたしは、その方が運営している元ドヤ（日雇い労働者向けの簡易宿泊施設）の福祉マンションの一室にしばらく滞在させてもらえることになったのです。その方は「釜ヶ崎はずっと被災し続けているようなものだから（被災した人の力になりたい）」ということをおっしゃっており、そのことばがとても印象に残っていました。

ココルームを訪れてからの展開には驚くことが多かったです。その暖かい申し出に感謝して、1週間ほど滞在させてもらったのです。その後、用事があって関東に戻った後も、しばらく大阪に移住できないかを考え始めました。わたしは、本当に被害が深刻な福島よりもずっと状況がわるくない埼玉からわざわざ移住するのは、他の人に対して申し訳ないのではないかと思いましたが、ココルームの代表である上田假奈代さんから、「もしこちらにくることを考えている場合、受け入れられるようにしたい。実際に移住してくれる人がいた方が、被災者・疎開者援助のプロジェクトもはじめやすいから」といっていただいたことが縁で大阪に一時引っ越してみようと考え始めました。

そして、もう一度大阪に相談のために出かけ、西成区役所に転校の手続きについての相談にいったあと、6月に疎開することを決めました。そこから数えてもうすぐ大阪での生活が9ヶ月になります。今振り返っても、様々な縁があって実現したことであり、お世話になった方には感謝しても仕切れないほどです。自分から、こうしよう、ときちんと計画しておきたことではないのですが、現在の生活をお伝えすることで、移住を検討している方にほんの少しでも参考になればと願っています。



ココルーム前で
こはるさんとゆかいななかまたち

線量が低く、福島から通いやすい米沢へ、
週末やおやすみの日に気軽に保養に来ませんか？

日時：2012年4月29日（日）まで

場所：山形県米沢市城南2丁目4-38

（上杉神社のすぐ近く）**米沢市内の古民家**

参加費：大人一泊 1,000 円

子ども 18 才以下無料

※食事は自炊になります。お米と調味料は用意します。

※風呂は近くの温泉

（白沢の湯別途 400 円）をご利用ください。

持ち物：着替え・シーツ・防寒具・タオル・洗面用具

定員：一日 8 名

**山形の古民家で
保養ができます。**



くわしくはブログ 毎週末山形において
http://blogs.yahoo.co.jp/everyweekend_yonezawa/2527010.ht

もしくはメールにて 毎週末山形において
everyweekend_yonezawa@yahoo.co.jp

ココルーム東北出張所では、福島にて下記の企画を行っています。いっしょに考え、いっしょに運営をしてくださる方も大募集中です。たくさんやんで、たくさん考えて、たどりついたのは、いっしょにはなしをする、学びあう、ということでした。無理せず、あきらめず、行いたいと思います。

いろんな人があつまって、話をするところから
～ちいさな いどばた～

infomation
ふくしまの
いどばたから

いま、いろんなことがわからない。

いろんなことにもんもんとしている。

じゃあ、いろんな人があつまって、話をするところからはじめてみよう。と、自分たちでできる、ちいさな会を行うことにしました。おしゃべり会や、映画をみてみんなではなしをする会、本をよんでみるまなび会など。まずは、輪になるところから。

3/18

(日) 16:00 ~ 18:30

いどばた 映像おしゃべり会

短編映画「オンユアマーク」をみつつおはなしします。

短編映画「オンユアマーク」制作：スタジオジブリ 監督：宮崎駿 1995

CHAGE and ASKA が発表した曲「On Your Mark」のプロモーション・フィルムのひとつとして作成された宮崎駿のアニメ作品である。スタジオジブリ制作。1995年7月15日、映画『耳をすませば』と同時上映で公開された。

(1995.8)『月刊アニメージュ 1995年9月号での宮崎駿の On Your Mark インタビュー』

宮崎駿『いわゆる世紀末の後の話。放射能があふれ、病気が蔓延した世界。実際、そういう時代が来るんじゃないかと、僕は思っていますが。そこで生きるとはどういうことかを考えながら、作りました。』

【場所】

A・O・Z(アオウゼ) 4F 和室(MAX ふくしま)
〒960-8051
福島市曾根田町1番18号 MAX ふくしま 4F
TEL 024-533-2344

■交通

福島駅東口：徒歩 10分
福島交通バス：「MAX ふくしま」停留所より徒歩 3分
福島交通飯坂線：「曾根田駅」より徒歩 1分

【問い合わせ】

TEL 090-2483-9291 (原田)
090 - 2606 - 3574 (高橋)
080 - 5090 - 9507 (中野)
Email : mai@cocoroom.org
pompom2612@smail.plala.or.jp

赤い羽根 「災害ボランティア
・NPO 活動サポート」助成事業

「いなわしろ牧場きてくたされ」を開設準備中のお知らせ



線量の低い猪苗代地域（約 0.1~0.2 μ sv/h）にて、2012年5月を目標にホースセラピーを中心とした牧場「いなわしろ牧場きてくたされ」を開設準備中です。線量の高い福島市や郡山市などからも1時間圏内で移動ができ、自然ゆたかで文化も豊富な猪苗代。震災以降、外あそびの制限や環境の変化、ひばくと体調の変化、放射能への不安など、心身への負担が大きいことと思います。馬と関わり深呼吸しながら心身のケアをし、あつまった人とはなしをしませんか？

情報が欲しい方は、下記連絡先にお問い合わせください。開設準備が整いましたら、情報をお送りします。



NPO 法人インフォメーションセンター いなわしろ牧場 きてくたされ

Email:kitekutasare@ryufo.com

TEL 090-2483-9291（原田）

移転に際して…

ココルーム東北出張所が福島市での活動も継続しながら、同じ福島県の猪苗代町に移転します。こども住居を兼ねたオープンなスペースにしていきたいと考えておりまして、それにともない、家具、家電、キッチン用品、事務機器、事務用品、などなどなどなど、使用していないものなどがありましたら、どうぞお声かけください！

TEL 090 - 2483 - 9291（原田）

寄付をいただいたみなさま ありがとうございます

服部聖一、富田晃彦、日本ボランティア学会有志、竹尾茂樹、子ども未来・愛ネットワーク、石井秀樹、中野瑞枝

ココルーム
COCOroom
とうほくしゅうちやうじょ
東北出張所

TEL : 090-6553-1633

Email mai@cocoroom.org

ブログ : <http://cocoroomtohoku.jugem.jp/>

特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋



〒557-0001 大阪市西成区山王 1-15-11

TEL : 06-6636-1612

HP : <http://www.cocoroom.org/>

寄付について

ココルーム東北出張所では活動に寄付をいただいております。

ゆうちょ銀行 記号 14170-26010651

口座名義 とくていひえいりかつどうほうじん

こえとことばとこころのへや

特定非営利活動法人

こえとことばとこころの部屋

ココルーム東北新聞 2011年3月号

また どこかでね

2012年3月5日 発行

発行人：原田麻以（NPO法人ココルーム）

協力：子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク

明治学院大学国際平和研究所

赤い羽根「災害ボランティア・NPO サポート募金」助成事業